

山形市

Q1クリエイティブC改修が着工

設計IIオープン・エー、施工II愛和建设・たくみJVほか

山形市が、市立第一小 学校旧校舎をリノベーションして活用を計画している「Q1やまがたクリエイティブシティセンター整備事業」の安全祈願祭が15日、山形市内の現地で開かれた。設計はオープン・エーが担当し、施工は建築を愛和建设・たくみJV、電気設備がスズデン・電機鉄工山形JV、機械設備は黒澤建設工業・菱建工業JV、木製建具工事は山形市中央建具協同組合がそれぞれ請け負う。



改修後のイメージ図

当日は、関係者

約40人が出席。神事で佐藤孝弘山形市長、愛和建设の横山隆太代表取締役社長、オープン・エーの馬場正尊代表取締役らが玉串をささげ、工事の安全を祈願した。



佐藤市長

山形市本町1丁目地内にある同施設は、県内初

となるRC造の校舎として1927年に竣工。規模はRC造地下1階地上3階塔屋1階建て、延べ4800平方メートルで、2001年度には国の登録有形文化財にも指定された。約80年間、小学校としての役割を果たし、10年度からは地下1階と地上1階部分を観光文化交流センター「山形まなび館」として活用している。



横山社長

ユネスコ創造都市ネットワークに加盟している山形市では、文化芸術や

創造性を活かして地域活性化を図ろうと、現在使われていない2、3階部分についても再利用することを立案。内部にはオープンアトリエや工芸ショップ、映写室、シェアオフィスなどを配置し、クリエイティブで優秀な人材の創出を目指す。工事は、躯体がむき出しの状態となっている2、3階の内部改修（延べ約3100平方メートル）をメインに行う。具体的には、屋根の断熱材・機械固定式シート防水1500平方メートル、建具新設142カ所、フローリング張り2500平方メートルなどを施すほか、定員24人のエレベーター1基分（S造地下1階地上3階建て、延べ55・83平方メートル）も増築。工期は22年3月2日までで、外構工事などを経て、同年9月からの供用を目指す。